

## 雲南圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
雲南-1	雲南の木増産プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲南地域全体及び木材生産団地内の木材生産については今年度目標を概ね達成出来た。</li> <li>・提案型集約化施業の実施箇所については各森林組合において今年度目標を上回る達成となった。</li> <li>・積極的に提案型集約化施業を進めている大田市森林組合と意見交換を継続実施。大原森林組合では現状の把握と課題の抽出により体制強化へ向けての取組が進んだ。</li> <li>・コスト分析については、各組合毎に検証を行い、改善策を検討できた。</li> <li>・効率的で現地に適した路網整備や作業システム等の改善のため各種研修会に参加しスキルが向上した。</li> <li>・雲南管内の全市町の地籍情報が森林GISに反映され森林境界の明確化が図られることにより今後の集約化(主伐、間伐、路網整備)が進む見込み。</li> </ul>	雲南圏域全体の木材生産量(m <sup>3</sup> )	67,000	58,000	87%
			(木材生産団地内)	51,500	50,400	98%
			うち雲南圏域3森林組合の木材生産量(m <sup>3</sup> )	43,500	33,100	76%
			提案型集約化施業の実施箇所数(累計)	20	23	115%
			(実施面積)(ha)	290	264	91%
雲南-2	雲南の木活用促進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原木集出荷体制の構築に向けて、雲南市加茂ストックヤードにおいてトラックスケールが整備されたほか、飯南町でも下来島においてストックヤードが整備されることが決定した。</li> <li>・製材所への原木直送については、伐採時期や原木規格等から需要と供給が噛み合わないケースもあり、取引量が目標の9割(3,883m<sup>3</sup>)となった。</li> <li>・飯南町産木材利用促進協議会の初会合が開かれ、公共工事における木材利用推進について意見交換が行われ問題点等についても認識を共有できた。</li> <li>・乾燥材出荷量については、既存施設の老朽化等による生産コスト増高により目標の6割(410m<sup>3</sup>)に留まった。今年度、飯石森林組合及び(株)出雲林業において新たに人工乾燥機が導入されたことから、今後、生産量の増加が期待できる。</li> <li>・飯石森林組合赤来製材工場が製材品の品質性能の明確化に対応するため、構造用製材のJAS認定を取得した。</li> <li>・木質バイオマスの熱エネルギー利用量については、供給体制と利用施設の整備が進められつつある。今年度は目標を上回る達成(1444t : 119%)となった。</li> </ul>	製材所への原木直送量(m <sup>3</sup> )	4,371	3,966	91%
			乾燥材製品出荷量(m <sup>3</sup> )	682	410	60%
			木質バイオマスの熱エネルギー利用量(t)	1,217	1,501	123%
雲南-3	奥出雲キノコの里づくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要菌床キノコ及び加工品売上高は夏場の生産調整により、今年度目標を下回ったが、収益は大幅に改善した。</li> <li>・菌床シイタケの生産者向け栽培マニュアル作成により生産技術の向上が図られた。</li> <li>・健康に良い食材の提供について、(有)奥出雲椎茸の「さくらげ」が美味しさを認め、認定を取得。</li> <li>・(有)奥出雲椎茸では、値決め商品取扱店での販売促進活動が功を奏し、平均販売単価が前年比でアップした。また、菌床販売先の新規開拓により安定した生産・販売に繋がっている。</li> <li>・飯石森林組合が取り組んでいる新品種菌床シイタケについては、商品コンセプトが決まり、今後具体的な商品づくりを目指していく予定。</li> </ul>	主要菌床キノコ及び加工品売上高(百万円)	1,131	1,061	94%